

自ら考え、根拠をもって表現することのできる生徒の育成 ～協働学習とミニ授業を通して～



特別研修員 商業 高山 駿（高等学校教諭）

【生徒の実態】

- ・物静かで真面目であるが、授業に対して消極的である。
- ・分からないことを「分からない」と言えない生徒が多い。
- ・授業中の発言は、限られた生徒になってしまう。



【教師の願い】

- ・チャレンジしようとする精神がほしい。
- ・協働学習によって、様々な生徒と関わり合い、「分からない」ことなどを生徒同士で共有できる環境で自信をもたせ、自ら積極的に発言できる生徒になってほしい。

授業実践例
財務会計Ⅰ
「新株予約権」

手立て①：自己表現の共有と学習内容の整理

前時までの授業で「分からない」ことや「分かっている」ことを表現し、協働学習を通して学習内容を整理する。

本時の課題：新株予約権の会計処理の方法と妥当性、実務における課題はなに？

純資産の勘定
発行した会社に対して使用できる権利
わすれました 分からない
授業をしたけど忘れちゃった



根拠

課題のメリット
・デメリットを整理するよ

グループで作成したスライド

新株予約権とは？
新株予約権者が、新株予約権を発行した株式会社に対して権利を行使することにより、あらかじめ定められた価額で株式の交付を受けることができる権利をいう。

新株予約権の行使
新株予約権が行使された場合には、株式会社は新株予約権および権利行使価額の払い込みと引き換えに株式を交付する。

会計処理の方法の妥当性
・新株予約権の発行にあたり対価（払込金額）を受け取る。
・貸借対照表で、株主資本とは**独立**される

メリット
・借入なしで資金調達できる
・敵対的買収への**防衛手段**となる
・行使期間内であれば**権利を行使**するかしないか**選択**できる

デメリット
・株式が**希薄化**する
・株価が大幅に下がると今後の資金調達が難しくなる

本時活動前に自己表現をグループで共有！

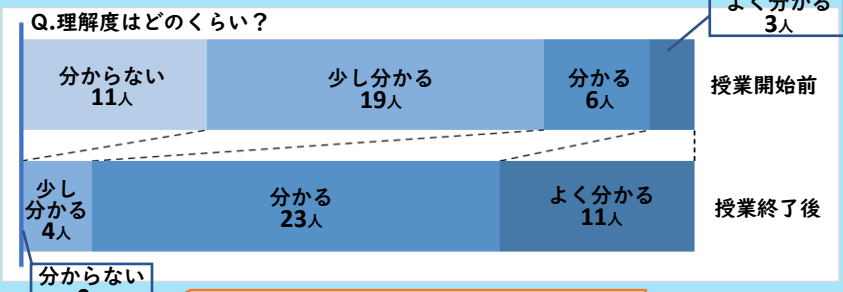
分からないことや分かっていることを自己表現

グループで学習内容の整理

グループで自由に1枚のスライドを作成

手立て②：少人数グループでのミニ授業の実施

協働学習を通して作成したスライドを使用して、他の班に対しミニ授業を行う。



グループで作成したスライドでミニ授業

授業の振り返り（生徒記述）

- ◎最初は不安だったが、グループで協力してミニ授業までできたことが嬉しかった。
- ◎新株予約権が行使されなかった場合権利が失われるのは分かっていたが、資金調達ができない可能性があることは今回の授業で分かった。

【目指す生徒像】

学習活動を通して分かったことで自ら考え根拠をもって、表現することができる生徒

成果

- 手立て①**
ICTの活用によって自己表現が容易となり、既習内容の復習と整理を協働学習によってすることで自らの考えをもって表現できた。
- 手立て②**
他者に自らの言葉で伝えることによって、知識を整理し、理解が深まった。
- 授業全体**
前時までの理解度に対して、授業終了後は大きく改善した。また、授業のめあてに対しての振り返りも授業から得た根拠をもって、自らの言葉で表現できていた。

課題

- ・手立ての取組に対して、情報収集から自己表現ですることと時間が掛かるため、より明確な時間設定が必要となる。
- ・授業展開や使用するアプリケーションソフトが同じことで、慣れてきてしまい、学習内容を整理・表現する場面で簡単な言葉でしか表現なくなってしまう、なぜ分からないのかを考えない生徒が多くなってしまった。
- ・授業の題材によっては、実生活に関わる課題を考察させるまでは難しく、前時までの内容を答えるまでに留まってしまうため、題材に工夫が必要である。